

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月9日
【四半期会計期間】	第60期第2四半期（自平成24年7月1日至平成24年9月30日）
【会社名】	タカノ株式会社
【英訳名】	TAKANO CO.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 鷹野 準
【本店の所在の場所】	長野県上伊那郡宮田村137番地
【電話番号】	(0265) 85 - 3150 (代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 大原 明夫
【最寄りの連絡場所】	長野県上伊那郡宮田村137番地
【電話番号】	(0265) 85 - 3150 (代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 大原 明夫
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第59期 第2四半期連結 累計期間	第60期 第2四半期連結 累計期間	第59期
会計期間	自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日	自平成24年 4月1日 至平成24年 9月30日	自平成23年 4月1日 至平成24年 3月31日
売上高(千円)	7,618,418	7,795,606	15,287,710
経常利益又は経常損失() (千円)	154,910	106,753	179,666
四半期(当期)純利益又は四半期純損失() (千円)	47,299	193,809	53,678
四半期包括利益又は包括利益(千円)	100,557	241,626	126,569
純資産額(千円)	26,118,733	25,781,516	26,144,712
総資産額(千円)	31,873,005	30,678,301	32,954,235
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()(円)	3.11	12.75	3.53
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	81.9	84.0	79.3
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	1,182,143	1,550,383	614,104
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	550,982	265,427	885,166
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	198,984	191,954	74,063
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高(千円)	9,987,916	10,838,600	9,255,764

回次	第59期 第2四半期連結 会計期間	第60期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日	自平成24年 7月1日 至平成24年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()(円)	5.03	0.31

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第59期及び第59期第2四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため、第60期第2四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要を背景として、緩やかな景気回復の動きが見られたものの、欧州の債務危機問題や中国経済の成長鈍化等の影響による世界経済の成長鈍化懸念があり、依然として不透明な状況での推移となりました。

このような厳しい環境のもとで、当社グループは「百年企業となる」を長期経営目標に掲げ、「危機を克服し、新たな成長路線を築く」をスローガンとし、中期経営方針に掲げる「大胆な意識改革・構造改革を行う」、「新しいことに積極的に挑戦し、差別化を進める」、「グローバルの視点で考え、行動する」、「ものづくり+ で新たな価値を創出する」の各施策を進めるべく、引き続き、海外調達の拡大、内外製区分の見直しや製品設計等の標準化を通じたコストダウン、住生活関連機器事業にかかる組織体制の見直し、中国市場向けの積極的な営業活動、医療関連機器の新製品開発の推進などの施策を行ってまいりました。

その結果、検査計測機器の販売が堅調に推移したこと等により、当第2四半期連結累計期間の売上高は7,795百万円で、前年同四半期比177百万円（2.3%）の増収となりました。

しかしながら、利益面につきましては、需要の低迷にともなう販売の減少を補うべく、積極的なコスト削減に努めたものの、営業損失107百万円（前年同四半期は営業利益172百万円）、経常損失106百万円（前年同四半期は経常利益154百万円）、四半期純損失193百万円（前年同四半期は四半期純利益47百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

当社グループは、オフィス用、福祉・医療施設用の椅子等を製造販売する「住生活関連機器」事業、液晶等の検査計測装置等を製造販売する「検査計測機器」事業、電磁アクチュエータ等を製造販売する「産業機器」事業、カーポート、テラス、オーニング等を製造販売する「エクステリア」事業を報告セグメントとしております。また、その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ユニット（ばね）製品、機械・工具等の販売に係る事業を含んでおります。

住生活関連機器

当セグメントにおきましては、前年度に引き続き、国内および中国オフィス家具市場向け新製品開発に取り組むとともに、中国製造委託体制の構築・海外調達の強化等のコストダウンを積極的に進めました。また、医療・診療空間で使用される製品の開発と販売活動を進めてまいりました。

この結果、当セグメントの売上高は2,438百万円と前年同四半期と比べ14百万円（0.6%）の増収となり、セグメント損失は217百万円（前年同四半期はセグメント損失243百万円）となりました。

検査計測機器

当セグメントにおきましては、前年度に引き続き中国向け液晶検査装置および高精細中小型液晶向け検査装置の受注活動に注力するとともに、高機能フィルム向け等の液晶以外の分野における検査装置の積極的営業・開発活動を行ってまいりました。また、製品の競争力強化および新規分野への展開を図るため高速光学センサーの開発に注力してまいりました。

この結果、当セグメントの売上高は3,449百万円と前年同四半期と比べ130百万円（3.9%）の増収となりましたが、販売価格の低下等の影響により、セグメント利益は119百万円と前年同四半期と比べ295百万円（71.3%）の減益となりました。

産業機器

当セグメントにおきましては、一服感のある半導体製造設備投資の動きにともない、半導体関連機器向け電磁アクチュエータの需要は低調に推移するなか、中国をはじめとするアジア地域での製造委託体制の構築、海外市場への積極的な営業活動および医療関連分野向け電磁アクチュエータの開発に取り組んでまいりました。

しかしながら、半導体関連機器向け電磁アクチュエータの販売減少等により、当セグメントの売上高は697百万円と前年同四半期と比べ75百万円（9.7%）の減収となり、セグメント利益は33百万円と前年同四半期と比べ72百万円（68.1%）の減益となりました。

エクステリア

当セグメントにおきましては、オーニング等の物件受注に向けた積極的な販売促進と営業体制の拡充を図ってまいりました。

この結果、高速道路パーキングエリア・サービスエリア向けオーニングの受注増加等により、当セグメントの売上高は444百万円と前年同四半期と比べ60百万円（15.6%）の増収となり、セグメント損失は56百万円（前年同四半期はセグメント損失92百万円）となりました。

その他

その他の区分におきましては、機械・工具の販売が回復基調に推移した結果、売上高は765百万円と前年同四半期と比べ48百万円（6.7%）の増収となり、セグメント利益は2百万円（前年同四半期はセグメント損失29百万円）となりました。

（2）キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金および現金同等物（以下「資金」という。）は、10,838百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、前年同四半期比368百万円、31.2%増加の1,550百万円となりました。これは、主に売上債権の減少額が前年同四半期の3,270百万円から当四半期は1,386百万円となり前年同四半期比で1,884百万円の収入減となったこと及び前受金の減少額が前年同四半期の465百万円から当四半期は930百万円となり前年同四半期比で464百万円の収入減となったものの、たな卸資産の減少額が前年同四半期の7百万円から当四半期は1,806百万円となり前年同四半期比で1,799百万円の収入増となったこと及び仕入債務の減少額が前年同四半期の1,529百万円から当四半期は609百万円となり前年同四半期比で919百万円の支出減となったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られた資金は、265百万円（前年同四半期は550百万円の支出）となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出が前年同四半期比で176百万円減少したこと及び投資有価証券の売却による収入が828百万円発生したこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により支出した資金は、前年同四半期比7百万円、3.5%減少の191百万円となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出が前年同四半期比で10百万円減少したこと等によるものであります。

（3）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

（4）研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は199百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

（5）生産、受注及び販売の実績

当第2四半期連結累計期間において、受注残高は3,348百万円で前年同四半期比2,279百万円（40.5%）と著しく減少しております。これは主に、検査計測機器事業において、当第2四半期連結累計期間に大口の受注案件が少なかったため等によるものであります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	15,721,000	15,721,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	15,721,000	15,721,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	-	15,721,000	-	2,015,900	-	2,157,140

(6)【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
コクヨ株式会社	大阪市東成区大今里南6丁目1-1	2,151.5	13.68
堀井 朝運	長野県上伊那郡宮田村	1,487.4	9.46
日本発条株式会社	横浜市金沢区福浦3丁目10	1,151.5	7.32
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-12	1,000.0	6.36
株式会社鷹山	長野県上伊那郡宮田村231	955.7	6.07
鷹野 準	長野県上伊那郡宮田村	789.6	5.02
タカノ株式会社	長野県上伊那郡宮田村137	524.7	3.33
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-11	502.8	3.19
鷹野 力	長野県上伊那郡宮田村	420.0	2.67
株式会社八十二銀行 (常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	長野県長野市中御所岡田178-8 (東京都港区浜松町2丁目11-3)	283.9	1.80
計	-	9,267.1	58.94

- (注) 1. みずほ信託銀行株式会社所有株式はすべて日本発条株式会社の信託財産であります。
 2. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式のうち、493.4千株は信託業務に係るものであります。

(7)【議決権の状況】
 【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 524,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 15,194,500	151,945	-
単元未満株式	普通株式 1,800	-	-
発行済株式総数	15,721,000	-	-
総株主の議決権	-	151,945	-

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
タカノ株式会社	長野県上伊那郡宮田村137番地	524,700	-	524,700	3.33
計	-	524,700	-	524,700	3.33

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,945,764	11,668,600
受取手形及び売掛金	1 5,945,239	1 4,560,349
有価証券	52,291	253,934
商品及び製品	402,262	503,884
仕掛品	3,434,379	1,550,652
原材料及び貯蔵品	725,040	700,859
その他	628,399	472,474
貸倒引当金	279	186
流動資産合計	21,133,098	19,710,569
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,422,811	1,376,562
機械装置及び運搬具(純額)	520,303	491,174
土地	4,248,893	4,251,378
その他(純額)	254,332	315,926
有形固定資産合計	6,446,341	6,435,042
無形固定資産	336,501	339,805
投資その他の資産		
投資有価証券	3,472,098	2,592,303
その他	1,573,364	1,607,691
貸倒引当金	7,168	7,110
投資その他の資産合計	5,038,294	4,192,884
固定資産合計	11,821,137	10,967,732
資産合計	32,954,235	30,678,301

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1 2,634,661	1 2,025,842
未払法人税等	8,059	19,844
前受金	1,731,144	801,048
賞与引当金	263,949	185,303
役員賞与引当金	4,600	-
受注損失引当金	366,847	227,267
その他	973,043	1 839,603
流動負債合計	5,982,305	4,098,909
固定負債		
長期借入金	215,000	185,000
退職給付引当金	393,625	401,693
役員退職慰労引当金	158,750	156,390
その他	59,841	54,792
固定負債合計	827,217	797,876
負債合計	6,809,522	4,896,785
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,015,900	2,015,900
資本剰余金	2,355,417	2,355,417
利益剰余金	22,062,961	21,747,581
自己株式	272,421	272,421
株主資本合計	26,161,857	25,846,478
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	17,330	33,818
為替換算調整勘定	34,474	31,143
その他の包括利益累計額合計	17,144	64,961
純資産合計	26,144,712	25,781,516
負債純資産合計	32,954,235	30,678,301

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	7,618,418	7,795,606
売上原価	6,297,599	6,608,746
売上総利益	1,320,818	1,186,860
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	297,704	328,179
賞与引当金繰入額	55,673	42,168
退職給付費用	22,641	32,329
貸倒引当金繰入額	55	103
役員退職慰労引当金繰入額	5,900	5,560
その他	765,981	886,399
販売費及び一般管理費合計	1,147,955	1,294,531
営業利益又は営業損失()	172,862	107,671
営業外収益		
受取利息	23,290	20,387
受取配当金	11,269	10,124
助成金収入	1 9,751	1 16,731
その他	7,729	19,157
営業外収益合計	52,040	66,400
営業外費用		
支払利息	1,920	2,027
固定資産除売却損	1,267	615
為替差損	61,145	56,792
コミットメントフィー	5,472	5,073
その他	187	972
営業外費用合計	69,993	65,482
経常利益又は経常損失()	154,910	106,753
特別利益		
固定資産売却益	56	4,282
投資有価証券売却益	-	4,400
特別利益合計	56	8,682
特別損失		
固定資産除却損	796	-
投資有価証券評価損	58,128	133
特別損失合計	58,924	133
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	96,042	98,204
法人税、住民税及び事業税	12,473	13,706
法人税等調整額	36,270	81,899
法人税等合計	48,743	95,605
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	47,299	193,809
四半期純利益又は四半期純損失()	47,299	193,809

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	47,299	193,809
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	51,376	51,148
為替換算調整勘定	1,881	3,331
その他の包括利益合計	53,258	47,817
四半期包括利益	100,557	241,626
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	100,557	241,626
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	96,042	98,204
減価償却費	226,266	227,550
貸倒引当金の増減額(は減少)	78	151
賞与引当金の増減額(は減少)	189,749	78,638
役員賞与引当金の増減額(は減少)	5,000	4,600
退職給付引当金の増減額(は減少)	3,113	8,021
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	5,450	2,360
受注損失引当金の増減額(は減少)	71,407	139,580
受取利息及び受取配当金	34,560	30,511
支払利息	1,920	2,027
投資有価証券評価損益(は益)	58,128	133
売上債権の増減額(は増加)	3,270,671	1,386,558
たな卸資産の増減額(は増加)	7,089	1,806,394
仕入債務の増減額(は減少)	1,529,311	609,661
前受金の増減額(は減少)	465,688	930,090
その他	213,256	24,315
小計	1,296,217	1,512,571
利息及び配当金の受取額	34,127	30,975
利息の支払額	1,794	1,989
法人税等の支払額	146,406	5,872
法人税等の還付額	-	14,698
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,182,143	1,550,383
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	398,000	308,000
定期預金の払戻による収入	198,000	168,000
有価証券の取得による支出	-	201,600
有形固定資産の取得による支出	343,962	167,430
有形固定資産の売却による収入	595	5,867
投資有価証券の取得による支出	735	24,437
投資有価証券の売却及び償還による収入	-	828,090
その他	6,880	35,062
投資活動によるキャッシュ・フロー	550,982	265,427
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	70,000	60,000
リース債務の返済による支出	7,413	10,384
配当金の支払額	121,570	121,570
財務活動によるキャッシュ・フロー	198,984	191,954
現金及び現金同等物に係る換算差額	51,425	41,020
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	380,750	1,582,835
現金及び現金同等物の期首残高	9,607,165	9,255,764
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,987,916	10,838,600

【会計方針の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産(建物を除く)については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ2,275千円減少しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
受取手形	48,664千円	28,942千円
支払手形	31,659	243,073
流動負債・その他(設備支払手形)	-	9,378

(四半期連結損益計算書関係)

1 雇用調整助成金による収入であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	10,637,916千円	11,668,600千円
預入期間が3か月を超える定期預金	650,000	830,000
現金及び現金同等物	9,987,916	10,838,600

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月20日 取締役会	普通株式	121,570	8	平成23年3月31日	平成23年6月9日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月18日 取締役会	普通株式	121,570	8	平成24年3月31日	平成24年6月8日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	住生活関連 機器	検査計測 機器	産業機器	エクステ リア	計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,424,253	3,319,138	772,476	384,945	6,900,813	717,604	7,618,418
セグメント間の内部売 上高又は振替高	15,540	53,659	-	3,682	72,882	119,809	192,691
計	2,439,793	3,372,797	772,476	388,628	6,973,695	837,414	7,811,110
セグメント利益又は損失 ()	243,589	414,375	105,976	92,788	183,974	29,849	154,124

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ユニット(ばね)製品、機械・工
 具等の販売に係る事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内
 容

(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益又は損失()	金額
報告セグメント計	183,974
「その他」の区分の損失()	29,849
セグメント間取引消去	18,738
四半期連結損益計算書の営業利益	172,862

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	住生活関連 機器	検査計測 機器	産業機器	エクステ リア	計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,438,452	3,449,197	697,252	444,990	7,029,892	765,713	7,795,606
セグメント間の内部売上高又は振替高	5,442	8,216	3	7,416	21,078	103,528	124,607
計	2,443,894	3,457,413	697,255	452,406	7,050,971	869,242	7,920,213
セグメント利益又は損失 ()	217,501	119,022	33,797	56,280	120,961	2,213	118,748

（注）「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ユニット（ばね）製品、機械・工具等の販売に係る事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益又は損失 ()	金額
報告セグメント計	120,961
「その他」の区分の利益	2,213
セグメント間取引消去	11,076
四半期連結損益計算書の営業損失 ()	107,671

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産（建物を除く）については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「住生活関連機器」のセグメント損失が1,126千円減少し、「検査計測機器」のセグメント利益が707千円増加し、「産業機器」のセグメント利益が263千円増加し、「エクステリア」のセグメント損失が91千円減少し、「その他」のセグメント利益が85千円増加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	3円11銭	12円75銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	47,299	193,809
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	47,299	193,809
普通株式の期中平均株式数(株)	15,196,340	15,196,266

(注) 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月2日

タカノ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 五十幡 理一郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小松 聡 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているタカノ株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、タカノ株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。